

令和4年度第2回西海市総合教育会議 議事録

開催年月日	令和4年10月25日(火)		
開催場所	大瀬戸コミュニティセンター 2階第1会議室		
開会及び閉会	開会 午後2時40分 閉会 午後4時45分		
会議構成員の氏名及び出欠の状況	市長	杉澤 泰彦	出席
	教育長	渡邊 久範	出席
	教育委員	北島 淳朗	出席
	教育委員	武宮 智	出席
	教育委員	川南 まつみ	出席
	教育委員	矢吹 希己代	出席
	職務のため出席した者の職氏名	教育次長	山口 英文
		教育総務課長	岩永 勝彦
		学校教育課長	山田 喜彦
		社会教育課長	作中 修
		新産業推進課長	山口 潤
		総務部長	下田 昭博
		総務課長	岸下 輝信
	総務課行政班長	益田 貴弘	

議事	1. 脱炭素社会に向かうまち西海市について
	2. 部活動の地域移行について
	3. その他
議事録	
総務課長	<p>(開会)</p> <p>皆様お疲れ様でございます。</p> <p>本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。</p> <p>今回の総合教育会議ですが、当初 15 時から開会ということでご案内いたしておりましたが、急遽、予定を変更いたしまして早めの開催となりました。</p> <p>傍聴の方におかれましては、急な変更となりまして申し訳ございませんでした。</p> <p>お詫びを申し上げます。</p> <p>それでは、ただいまから令和 4 年度第 2 回西海市総合教育会議を始めさせていただきます。</p> <p>開会に当たりまして、杉澤市長から挨拶をお願いしたいと思います。</p> <p>よろしくお願いします。</p>
市長	<p>皆様、改めましてこんにちは。</p> <p>開会にあたりまして一言ご挨拶を申し上げます。</p> <p>今年 2 回目の総合教育会議でございますが、本日、皆さん方は長時間にわたって、教育委員会、その後に、こういう時間を作っていただきましてありがとうございます。</p> <p>今回、議題になるのは、「脱炭素社会に向けたまちづくり」、それと「部活動の地域移行」、これを議題としているわけですが、そういう中で、本当、皆さん方お忙しい中お集まりいただきました。</p> <p>そして今日、新たに武宮委員に参加していただいて、前任の寺本委員には、長きに亘って西海市の教育行政についていろんな形で力をお借りしたわけでございますけれども、武宮委員につきましても、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>さて、本題でございますが、「脱炭素」、なぜこれを議題に挙げたかといいますと、西海市が 2050 年に向けて、「カーボンニュートラル」、「ゼロカーボン」を目指していくということを、昨年 6 月に表明したところでございます。</p> <p>なぜこの「脱炭素」というのを挙げたのか。</p> <p>これは私の 2 期目の第 1 番目に持ってきた政策でございます。</p> <p>なぜこれを持ってきたのかと言いますと、日本が世界に 2050 年、カーボンニュートラル、二酸化炭素排出ゼロを目指すということを表明いたしました。</p>

た。

ちょうど松島火力発電所の存続がかかっていた頃でありまして、それに西海市には洋上風力発電も今進んでいるところですが、政府がそういう表明をした頃、政府のほうもあまり道筋が立っていなかったという状況なんですね。

そのようなときに、「日本の教科書が西海市にあるんじゃないですか」ということで進めてきたわけでありまして。

また、西海市は森林が非常に豊かなところでありまして、50年木、60年木、ちょうど主伐の時期に入っているんですが、森ってというのは、外側から見たものと、中に入って見るのでは全然違うんですね。

きれいな山並みに見えますけれども、中に入ってみると結構荒れている。やっぱり手が入っていないということなんですね。

そういう山をしっかりと守っていかなければならないということがありまして、西海市には山林もあるし、そして再生エネルギーを使った洋上風力発電が今回促進区域に指定されました。

あとは国の主導によって事業者が選定されていくわけですが、これもあと6年後ぐらいには、風車が回るということになろうかと思えます。

そして松島火力発電所につきましても、日本最高の技術でガス化、石炭なんですけれども、今、石炭というのが海外から非常に叩かれているんですが、実は石炭で最後までいくんじゃないんですね。

最後は水素に切替えていく。

その前段階で石炭から入っていく。

いきなり水素発電は出来ない。

そこまで技術は進んでいないということなんですけれども、しかしもう2050年には水素のほうに転換していくというようなことであります。

そういう西海市の流れを市民の皆さん方に広げていかなければならないというのがあります。

この前、松島火力発電所、大島造船所、ダイヤソルト、西海市を代表する三つの企業ですが、それと西海市、商工会も入りまして、そこで意見交換をやったんです。

どのような形で脱炭素に向けて取組んでいるかと。

企業の方々は、ものすごくレベルが高い話をされるんですね。

大島造船所については、ご存じかもしれませんが、風を使った帆掛け船みたいな大きな船（硬翼帆^{こうよくほ}）が完成し、それから、LNG、天然ガスを燃料とする船を今作っております。

松島火力発電所については、石炭でも水素は発生するんですが、石炭から出た水素（ブラウン水素）ではなく、最終的にはクリーンな再生可能エネルギー

	<p>ギーから出た電力によって作るんだというようなことも言っておりました。</p> <p>そしてダイヤソルトさんについては、今、海水から塩を作っているんですけども、海水の濃度というのは大体3%なんですけど、これを6倍ぐらいに濃度にイオン交換という技術で上げるんですけども、そこで塩分濃度差による浸透圧発電ができるという技術を発表していただきました。</p> <p>そして3社が集まって、それぞれが衝撃を受けたと言いますか、こういう機会を作って、これからは情報共有していこうじゃないかというようなところまで進んでおります。</p> <p>そういう中で、自分たちが取組んでいることを子供たちにも是非知って欲しいというような提案もございました。</p> <p>私自身も、脱炭素については、市が旗を振らなくては絶対に進まないということがありますし、広げていくには企業さんの協力も要る。</p> <p>そして最終的には、市民の皆さん方に意識していただいて進めていかないと、これは達成することは出来ないだろうと。</p> <p>市民に広げるには子供達なんですね。</p> <p>子供たちは地球の温暖化、気候変動について高い意識を持っています。</p> <p>彼らと共に情報を共有し合っ、そして市民にも広げていく。</p> <p>それが今1番必要かなと思っております。</p> <p>そういう中で、学校現場でも積極的に取り入れていただけないかなという思いがありまして、今日提案させていただいたところでありまして。</p> <p>もう1点の部活動の地域移行につきましては、学校の働き方改革を踏まえた部活動の改革として国が方向性を示しております。</p> <p>休日の部活動の段階的な地域移行について、皆さん方のご意見を賜りたいと思っております。</p> <p>本日も皆様と一緒に教育行政について議論していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>以上でございます。</p>
総務課長	<p>市長ありがとうございました。</p> <p>それでは本日の会議ですが、一応の目途といたしまして16時30分を終了の時刻としたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは早速、議事に移りたいと思います。</p> <p>これから先の進行は市長にお願いしたいと思います。</p> <p>よろしくお願いいたします。</p>
市長	<p>それでは、ここから私のほうで進行させていただきます。</p> <p>本日、教育委員会より「脱炭素社会に向かうまち西海市について」及び「部活動の地域移行について」の議題をいただいております。</p>

新産業推進課
長

まず「脱炭素社会に向かうまち西海市について」のご説明を新産業推進課のほうからお願いいたします。

皆さんこんにちは。

新産業推進課の山口と申します。

脱炭素社会に向かうまち西海市の担当部署としてご説明させていただきます。

着座にて説明してよろしかったでしょうか。

すみません失礼いたします。

それではご説明させていただきます。

表紙に「脱炭素社会に向かうまち西海市について」を使ってご説明いたします。

表題の下に書いております通り、先程市長が挨拶でも触れました、令和3年6月に表明しましたカーボンニュートラルの文言を書いております。

西海市は、カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現に向けまして、2050年、CO₂排出実質ゼロのゼロカーボンシティにチャレンジしますと表明したところでございます。

資料を1枚めくっていただきまして2ページをお願いいたします。

2ページには、令和4年度施政方針のテーマを書いております。

市長がどのような方針で市政を進めていくかを明らかにする令和4年度施政方針をここに書いております。

左上の①脱炭素社会に向かうまち西海市から右回りにご覧いただきたいと思っております。

大きくいきますと、①脱炭素、②産業、③防災、④地域資源、⑤教育・子育て、⑥医療・福祉、⑦島という大きく七つの柱を立てております。

本日の議題でもあります脱炭素社会に向かうまち西海市は、本市の市政運営として推し進めていくテーマであるとともに、その柱の中でも重要な施策に位置づけているということ、この資料でご説明いたしましたところがございます。

資料めくっていただきまして次に3ページをお開きいただきたいと思っております。

ここでは、脱炭素社会に向かうまち西海市、これの取組をトピックスとして図示してみました。

左側のほうが、昨年、令和3年度に主に行ったもので、真ん中から右側のほうに令和4年度に取組んだものをランダムに表示しております。

本日は時間の関係もありますので事業の個別具体の説明はいたしませんけれども、一過性の事業にはならないように事業を展開しております。

先程市長の挨拶でも触れましたとおり、最近の取組といたしまして、1番

右側の上のバブルの中に書いております市内主要企業と市長との意見交換会を今年9月30日に開催いたしました。

株式会社大島造船所、ダイヤソルト株式会社、電源開発株式会社、そして西海市商工会の皆様と意見交換を行っております。

大島造船所につきましては、センサーで風向きを察知して、帆の角度や高さを変えて制御をしながら効率的に前に進むという省エネ船や、アンモニア船の研究開発を行っております。

ダイヤソルトは、塩分濃度差を利用した浸透圧発電の導入研究、そういうものを既に取り組んでおりました。

電源開発は、CO₂排出量を大幅に削減する新しい技術を取り込むジェネシス松島計画、その実現に向けて取り組んでいるということで、各社の取組が、将来に向けて取るべき行動が見える化していきたいということを感じるのでございました。

ではなぜ、今日、総合教育会議でこの議題をとということになりますが、次の4ページをお開きください。

この76%という数字。

これはグローバルな数値なんですけれども、Z世代、書いておりますとおり、1997年生まれ以降、今年25歳以下の若い世代をここで指します。

このZ世代が、気候変動への対応が最大の関心事だと答えたというアンケートの結果が公表されております。

要はこれだけこの世代の皆さんが関心が高いということです。

まず、この数字だけこのページでお知らせしたかったところがございます。

次の5ページをお開きいただきたいと思います。

ではZ世代が選ぶ学びの場、それはどういうときにそのタイミングが訪れるのかということ、左から右に、ライフステージごとに書いてみました。

左からスタートしますと、入り口となるのは学校で、現状を学べる環境で過ごす学童期、そして上のほうに斜め上になりますけれども、友達とのネットやリアルで繋がる時、今度下にいきまして次は就職のとき、気候変動へ理解ある企業の選択、そして上にいきまして、次、暮らしの中で、環境配慮は当たり前だよねっていう考えが入る時がタイミングとして現れてくると思います。

そして、結婚するパートナーとは当然同じような価値観が合う人、そういう町にも住みたいよねということになり、人生プランとして、自身の生活をどう過ごしていきたいか考えるとき、そして、当然住まいを構えるとしても、そういう目線が当然入るタイミングがあり、気候変動は、要はグリーン、脱炭素という視点が、そういうところで現れてくると思います。

この図のように、ライフステージごとに気候変動、脱炭素という意識が加

わって選択される世代が 2050 年将来の主役になるということで、ここは資料を作らせていただきました。

脱炭素を学ぶという入り口が大切ということで資料を作っております。

次のページをお開きください。

本日、伝えたいメッセージをここに書いております。

当然、脱炭素達成期限、2050 年社会の主役は先程も申しました現在の子供たちです。

まず私たち大人は、西海市のすばらしい自然、豊かな資源を守って、次の世代に繋ぐ責任があります。

もう少し視点を変えて言い換えますと、小学生中学生の年齢の子供たちには、まだ日々の暮らしの中で環境を大きく左右させるような行動の決定権はありません。

そうしたときに子供たちができることって何だろうと。

大人がやるべきことは何だろうという視点で考えることが大切ではないかというところがございます。

そして、誰もが自分事として行動できるように、家族や友達など、身近な人たちで、この脱炭素に取り組んでいきたいということが一つ。

そして、先程市長の話もありました、西海市のポテンシャル、洋上風力発電や松島火力発電所のジェネシス松島計画、そして森林資源を生かしたグリーン産業を西海市の子供たちに知っていただきたいというところが、本日のポイントでございます。

そのために、1 番下を書いておりますけれども、取組提案としまして、グリーンで表示しております総合的な学習の時間等において、西海市や市内主要企業、大島造船所や電源開発、ダイヤソルトによる出前講座などで、脱炭素について学ぶ機会を提供というようなことを提案したいと思っております。

この提案という意味合いでございますけれども、市や企業が行う出前講座などを、市内各小中学校にご活用いただきたいという意味で、提案という言葉を使わせていただいております。

7 ページをお開きください。

ここは私たち大人、現役世代と言いたいと思います。

現役世代目線で少し現状を説明したいと思います。

私たち新産業推進課として、脱炭素、カーボンニュートラルに携わっております、感じる点が大きく四つございます。

①は、当然 2050 年というスパンが長すぎて身近な印象が薄い。

②は、そもそも周りが誰もやっていない。

③が、やったけれども結果が不透明。

④最後に、やるには新たなコストや労力が必要。

これらがカーボンニュートラルの取組の課題だと感じています。

脱炭素が浸透していかない、身近に感じない要因だと考えております。

これらを一遍に解決することは、かなり難しいと思うので、それぞれをしっかりと時間をかけながら取組んでいきたいというところでございます。

8ページをお開きください。

ここでは、カーボンニュートラル、脱炭素の行動の潮流について書かせていただいております。

2000年代前半には、個人のエコ意識が高い人の影響がかなり強かったというところでございますが、矢印の下にあるとおり、東日本大震災、2011年3月11日以降、家族や友人などの勧め、要は身近な人の影響が最も大きいというふうに変化が起きております。

当然この背景には、生き居心地のよさ、人との繋がりという信頼関係の大切さが、幸せに繋がっているもので、個人の幸せが周囲に伝播する、言い換えると、自分だけの幸せよりも家族や友人など、周りの人たちの幸せを祈ったりすることがクローズアップされてきたという研究が報告されております。

私たち現役世代と子供たち未来世代が信頼して、一緒にやわらかい西海市を作り、語る機会は、更に影響が大きくなるのではないかと期待をしているところでございます。

次のページをお開きください。

これから9ページ10ページと説明しますけれども、これらは西海市にあるデジタルな技術を活用して、これまで話した現状を大きく前進しうる可能性がある取組ではないかと思われる、参考例、取組例を記載させていただきました。

まず9ページは見える化にポイントを置いて考えております。

当然カーボンニュートラルに取組むには、今を知ること。

そしてCO₂をどれだけ出しているのか。

それで取組んだらどれだけ貢献したのか。

また、下に書いておりますWEB3.0やメタバースという、仮想空間の話になるんですけれども、そういうところで物理的に無理な脱炭素への関わりをこういう場所で可能にするという、これらの仕組みをアプリとかを活用して、学びの場で活用出来ないかっていうところが、こういうところにも可能性が秘めているのではないかと考えております。

10ページをお開きください。

次は貢献というところにポイントを置いた資料でございまして。

取組んだこと、やったことを実感できる仕組みがあれば、より明確にポジティブに物事を感じられるのではないかとということです。

今年には新産業推進課主催で、来月ですけれども11月10日から12日、大

	<p>島町のオリーブベイホテルで「ゼロカーボンウィーク」というイベントを開催するようにしております。</p> <p>この資料、10 ページの資料の下のほうに書いてますA I 絵画ですけども、アプリは、西海市の地域商社「西海クリエイティブカンパニー」が開発したLINEアプリで、「お絵描きばりぐっどくん」というもので、既に友達登録が180万人を超えております。</p> <p>これらを使って、カーボンニュートラルに触れるという機会、取組があっても楽しいのではないかと考えているところでございます。</p> <p>最後に、実は昨日、私参加したんですけども、西海市の地球温暖化防止対策協議会というところで、脱炭素に向けたシナリオ、将来ビジョンについて各委員さんから意見をいただくという時間がございまして、その中で、委員の皆様からいただいた意見にも、「子供たちへ環境エネルギー教育をして欲しい」、「SDGsのようにみんなで取組むべきだ」、「若い世代にとって大事なことだと思う」、「地道に地球をきれいにするについて考えていきたい」、そして「脱炭素に関する取組について、子供たちは楽しんでやっている」と。</p> <p>大人は多分何かを我慢しなければいけないということが先に来ると思うんですけども、子供たちは楽しんでやっているという意見がありました。</p> <p>西海市で育った子供たちが大きくなって、地域を超えて飛び出すときに、環境、脱炭素に対する意識が西海で育った子供たちは強いよねと言われるような西海市になりたいと思っております。</p> <p>以上、時間をとりましたけれども、6ページの取組提案というところにご意見をいただければと思っております。</p> <p>これで資料説明を終わります。</p>
市長	<p>はい、今、新産業推進課のほうから説明をいただきましたけれども、皆様から何かご意見等がありましたら。</p> <p>はい、北島委員。</p>
北島委員	<p>はい、北島です。</p> <p>ご説明ありがとうございました。</p> <p>会が始まる前にも市長さんとお話をさせていただいて、先日、新聞にチャーリッヒの森ですか、森林を整備して環境保全していこうと。</p> <p>ひいては、地域に暮らす市民の生活をより良くしていこうというような取組が始まったり、その前段ではゼロカーボンシティへの表明とか、西海市が、そうした環境志向の町になっているということ内外に向けて様々に広報が始まっているなというところは、市民一人一人にとっても大変誇りに思うところに通じていくのかなと大変ありがたく思っております。</p>

<p>市長</p>	<p>私からお伺いしたいところなのですが、これは教育委員会に教えていただきたいんですが、今、ご説明がありましたように私たちの世代というよりも、これからこの地域で社会を作り、社会を支え、世代を繋いでいく、未来の市民の中核になる子供たちに教育啓発していくということは非常に大事だと思うんです。</p> <p>そうした中で、現在のエネルギー教育っていうのは、どのような取組をしているのかなというところを、教育委員会から説明をいただければなと思ったんですけども、よろしいでしょうか。</p> <p>教育委員会からいいですか。 お願いします。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>失礼します。</p> <p>エネルギーに関しては、中学校の理科ですとか、社会科、技術家庭科等で、地球とか資源等を考えるような学習で教科では行っております。</p> <p>それから、先程あった総合的な学習の時間はテーマを定めますので、各学校の選択として、幾つか考えられる選択肢の中から、環境とかエネルギーとか地球などについてテーマを設定すると、このような学習には繋がるのかなとは思いますが。</p>
<p>北島委員</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>私たちが子供の時代から学生を通して、環境問題、エネルギー問題の学習の仕方っていうのは大きな変化はないのかもしれませんが、ここに来てエネルギー、例えば日本人は特にそうですが、水は無料だと思っているとか、きれいな水が飲めるっていうのが当たり前だと思っているとか、よく世界から見たときに言われる訳なんですけれども、今のヨーロッパの事情でいうと、ガスを送る管をキュッと閉めたら、本当に凍えるような冬を迎えないといけないかも知れないっていう状況、イギリスについてもエネルギーが1.8倍ぐらいになってきているとか、日本を出て世界を見ると、エネルギーとか水とかそういった資源の問題で戦争まで起こっている状況がある中で、なかなか日本では、そうしたところに向ける視線っていうのが、確かに今まで表面の部分しか学んできてなかったんだろうなと思います。</p> <p>ただ、このところ私の自宅の近辺が新しい住宅を建てるときに、皆さん大概ソーラーを積んでいるんです。</p> <p>何でなのかなと。</p> <p>買取りも余りメリットが出なくなったので、それよりも災害対策とか停電の時にとか、何かあったときの自分たちの保全というか、そういうので若い方なんですけれども、新しい意識が少しずつ芽生えているのかなと思うわけ</p>

<p>市長</p>	<p>です。</p> <p>だから自分たちの生活と密接に関係するようなところでのエネルギーの捉え方っていうのもいい機会になってくるかなと思いますので、是非いろんな形で、子供たち、そして子供たちの親も含めた市民の皆さんに何か啓発できるようなことがあればいいなと、お聞きしながら感じたところです。</p> <p>はい。</p> <p>今、若い世代が既にソーラーなどを導入して、意識が高まっているんじゃないかというところで、教育現場でも、理科とか技術とかいう形でやっていますというところだったんですけども、もっと生活に密接したところで、いろんな取組、何か出来たらいいのじゃないかなというようなご意見だったと思いますけれども、いかがでしょうか。</p>
<p>市長</p>	<p>先程、その他に総合学習という点がございましたけれども、総合学習で年間を通した中で、計画的な形で環境、エネルギーというお声も出ましたけれども、そういう時間を作っていただければなど、私は思っているわけですが。</p> <p>そして6ページだったと思いますけれども、取組への提案があったわけですが、総合的な学習の時間等において、西海市の主要企業、大島造船、電源開発、ダイヤソルト等による学校への出前講座とか、それから体験型という形で、雪浦でチューリッヒの森、森林の整備が今年から始まっております。</p> <p>そこでクアオルトという考え方があるんですが、健康状態を作っていくと。</p> <p>そこに遊歩道みたいなものを作って、みんながそこで森に親しんで、そして森作りだけではなくて、そこで健康づくり、ひいてはまちづくりに繋がっていくような体験をしていただきたいというのがありますし、今度は出前講座プラス外に出て行って、森との距離感を縮めていくというようなことも考えられると思いますので、何か取組が出来ないかなというような気持ちがありますけれども、その点どうでしょうか。</p> <p>カリキュラムなんかのことがあって、年間を通した中で振り分けていかなければならないと思うんですが、そういう面についてはどうなんでしょうか。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>すみません。</p> <p>学習のテーマとしたら、「現代的な諸課題」というものがテーマとなって、教科横断的な視点で力を育てていくというような学習になるんだろうと思いますが、そのテーマとしては、健康とか安全とか、エネルギーや地球とか、</p>

<p>市長</p>	<p>いろいろなものがある中で、学校が総合的な学習の時間に関してはテーマを選択していきます。</p> <p>それを教科横断的な視点で、先程の社会科とか、理科と関連させながら学んでいくということになるので、十分学習としては成立するだろうなと思っております。</p> <p>その中で、子供たちが課題を見つけて、その課題をどうやったら解決できるか調査をして、それを分析して発信するという、そういう力がつくだろうと思いますので、そのようなサイクルの中で選択することは可能だろうと思っております。</p> <p>渡邊教育長。</p>
<p>教育長</p>	<p>6 ページにあるように、西海市のいろいろな取組について総合学習の時間で学習をするということではできるとは思うんですけども、ただ年間を通して環境とかエネルギーについて学ぶというのは、他にもいろいろやるべきことがありますので難しいと思うんですけども、西海市はこういういろいろな取組を身近に見れるというのが非常に強みで、これを十分活用したほうが良いと思うんですけども、先程の説明の中に見える化というのが9 ページにありましたけれども、これは子供だけではなくて大人もそうなんですけれども、身近な生活の中で自分がこれをしたらCO₂がどれだけ減るかとかというのが実感しにくいと思うんですね。</p> <p>ヨーロッパでは非常に環境について意識が高くて、例えば「飛び恥」という言葉がありまして、これは飛行機に乗るのは恥だということで、例えば、記憶は曖昧なんですけれども、飛行機で1,000 キロ移動すると、1,000 キロというのは、イメージ的には多分福岡から北海道ぐらいだと思うんですけども、そこで出す二酸化炭素の量が車に乗って1年間で出す二酸化炭素の量と同じくらい1回のフライで二酸化炭素を出すということで、飛行機になるべく乗らずに電車で移動しようという動きが一般の人たちの間にもかなり浸透してきているんですね。</p> <p>そういう、これだけやったら二酸化炭素をこれだけ出して、例えば、車に1年間乗って出す二酸化炭素の量は、杉の木で何本分ぐらいが吸収する二酸化炭素の量であるとか、身近に分かるような教育をしていかないと、なかなか（二酸化炭素は）見えないものですから定着しにくいと思うんです。</p> <p>西海市はいろいろな環境について学ぶ材料ありますので、そういう日頃の生活の中で意識できるように、ある特定の時間というものも大事なんですけれども、やはり1年間を通していろいろな意識を高めて、先程ありましたけれども、西海市を出た子供たちは環境について強い、意識が高いという子供たちを育てていきたいなど。</p>

<p>市長</p>	<p>そのためには教科の中で、私も社会科が専門ですので教科で教えていましたけれども、せいぜい社会科の教科で教えるのは、年間に1時間か2時間ぐらいなんですね。</p> <p>総合的な学習は、もう少し時間がとれると思いますけれども、時間としては非常に少ないので、何とかいろんな場面で環境を意識するような教育を出来ないかなと思っているところなんですけれども、現状としては、まずは総合的な学習の時間に各学校で取り入れていきたいなと、そこから始めたいなと思っているところです。</p> <p>すみません、まとまりない意見で。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>今、見える化というところを言われていましたよね。</p> <p>実は、地域商社がいろんなアプリを作っていて、ちょっと見せてもらったんですが、面白いのを作っているなど。</p> <p>そういうアプリなんかをタブレットに入れられないかなと思うんですね。</p> <p>子供たちは結構喜んでやりますので、自分のタブレットで今やっていることがどれだけの効果があるのかということを知れたら、おもしろくなるんじゃないかなと。</p> <p>そういう一つ一つの積み重ねがこれからのカーボンニュートラルに繋がっていくのかなと思いますし、またエネルギーについても、今のようなエネルギーの供給体制、そして自分たち消費する側にとっても、本当にこれでいいんだろうかと。</p> <p>電気がいいかということ、そんなこと言えないんです。</p> <p>その電気は何から出来たのかという話であって、風力みたいな風を使っていれば、それは空気中の二酸化炭素排出には全く関係ない電気だと。</p> <p>一方、火力発電所というのは、一つの資源を使い、それを電気に交換したということですから、電気自体もクリーンな電気なのか、そうでないのかということも、これからは問われるんじゃないかと思っております。</p> <p>そして今回、こういう議題というのが、どこに狙いがあるかといいますと、今ステージごとにありましたよね、学校そして就職、そして結婚で家庭を持つというような流れがありましたけれども、要はその就職のところで、今、企業自体が価値を問われるんですね。</p> <p>企業も結局資金がないと発展出来ない。</p> <p>そのお金はどこから調達するかというと銀行しかない。</p> <p>若しくは自社の株から資金をとっていくんですけれども、そういうところにお金がもう流れてこない。</p> <p>SDGs というのがありますけれども、ESG というのもあるんですね。環境・社会への貢献、そして会社自体の統治能力というか、しっかりした</p>
-----------	--

<p>市長</p>	<p>企業でないと融資も受けられないという状況になっておりますので、企業自体も努力をしていかなければならない。</p> <p>そうであれば、私たちもそれに向かって進んでいかなければならない。</p> <p>その共通認識を持っていくということは非常に大切かなと思っておりますので、その入り口である子供たちというのが本当に鍵になるのかなど。</p> <p>そして、2050年はまだ私たちも生きてないです。</p> <p>もう100歳になりますから私も。</p> <p>生きてないです。</p> <p>今の子供たち、小学生、中学生、高校生まで入れて、2050年では、40代なんです。</p> <p>だから2050年の中心的な世代なんです。</p> <p>だから子供たちは、環境というのは自分のこととして考えることができる。</p> <p>私たちも、今感じることは、夏になったら毎年のように大雨が降る、台風は大型化してきている。</p> <p>台風が発生する度に恐ろしくてたまらないという状況になっている。</p> <p>大人たちも、今、身の回りでいろんな形で環境が変わっていったということに関しては脅威を感じたんじゃないかなど。</p> <p>しかし2050年、そこに絶対到達していくのが、その年代ですね。</p> <p>今10代の皆さん方が社会の中での中心的存在になるというところで、進めていければということをおもっております。</p> <p>他に何かございませんか。</p>
<p>川南委員</p>	<p>はい。</p> <p>川南さん。</p> <p>とても幼い話になりますが、さっき教育長の話聞いていて思いました。</p> <p>その前に、とっても分かりやすいお話をさせていただきましてありがとうございました。</p> <p>何となく私にも見えていますが、現状として、教育長も言っていたように学校の授業の中に、最先端のこういうのを取り入れて、脱炭素について学ぶという時間をたくさんとることは、教育課程の中では難しいのかなって私も思います。</p> <p>子供たちが2050年に大人になったときに、今はいろんなことを決めることが出来ないけれども、環境について大人になって決められる年代になったときに対応できるようにということだと思っんですけども、私は、こういう最先端のことを、アプリやインスタなどで学ぶことも大切かもしれませんが、日常生活の中で、こういうことをしたら二酸化炭素たくさんできるよね、</p>

	<p>ドライブして西海市内を走りますと畑ではどンドン燃やしている、それはいいのか。</p> <p>小さなことかもしれませんが。</p> <p>そして、私たちが環境教育で市の方から学んだことは、例えばごみを分別するとき、プラの回収について、きれいなものはそのまま出してもいいけれども、汚いものは汚れたまま出すわけにはいかないのです、きれいに洗ってから出してください。</p> <p>洗うためには水を使います。</p> <p>油汚れがちょっとあるものも洗って出そうとすれば洗剤を使います。</p> <p>そういう日常生活の中で工夫することということを、もう少し親、子供たちのお話を今していますが、親の世代が子供たちにそういう日常生活の工夫を教えていかないと、子供たちは判断することも出来なければ、ただただアプリの中で、そういう機械の中で学ぶということよりも、もっと日常生活の中でCO2のことについて学んだり、環境について学んだりしながら、クリーンな西海市の空気、西海市だけじゃありませんけれども、そういう子供たちの学習の仕方というか、そういうものも考えていったほうがいいんじゃないかなと思いつつ、今までの話を聞いていました。</p> <p>本当にこういう計画があるということは素晴らしいことで、でも私たちが生きている日常生活の中で、もっと学ぶものがあるのではないかっていうことを、教育として捉えていきたいなと思っていました。</p> <p>以上です。</p>
市長	<p>仰るとおり、私は2050年、彼らが主演と言いましたけれども、その前に大人としてやれることは当然やっていかなければいけないと思っております。</p> <p>そして、プラごみのことを言われましたけれども、私も思っています。</p> <p>汚れたのは、そのまま燃えるごみに入れてくれという分別ですね。</p> <p>それはコストの面でということになるんだろうと思うんですね。</p> <p>結局、リサイクルするほうも汚れたものは取らないということがありますので、べつとり付いた汚れをとってやっても、水代、洗剤を使うほうが非効率でしょうと。</p> <p>そこは基本的な考え方だと思うんですね、どちらを取るべきかというのは。</p> <p>これは環境に悪いよねと思っても、そのままリサイクルしたらよっぽど効率が悪いよねというところもありますし、そういうのも含めて、大人としては子供たちに教えていかなければならないと思っております。</p>
市長	<p>他に何か 武宮さん。</p>

武宮委員

はい、お聞かせいただいて、非常に大事な取組であるということ、そしてまた、学校教育の現場で、総合学習等において子供たちに知ってもらうということはとても大切なことだなと思いました。

そこから先、子供たちが知って、次にどういう動きに出るかということがとても大事なことだと思っていて、今アプリの開発ということもありましたが、一つ、ヒントになるかどうか分かりませんが、非常にいい取組だと思っているのが、詳しくは分からないんですけども、スポごみっていうのがありますよね。

スポーツとごみ拾いをミックスさせた取組があって、例えば子供たちに掃除しなさいと言っても嫌がるんですけど、ごみ何個拾えるか競争しましょうという楽しんでやるんですね。

そういった発想の一つの切り口というか、すばらしいことだと思っていて、見える化っていうことと関わってきますけれども、子供たちがこう取組んだら、こういう成果がある、しかもそれは楽しんでやれるというアイデアがあると、実際に知ったところから次の動き、どういう動きをして、自分たちがそれに関わっているんだ、参加しているんだという自覚を持てるかっていうところで、何かどういった方法が具体的にあるか、ぱっと思いつきはしないんですけども、一つ考えていく上での何かヒントになるんじゃないかなということを感じながら感じました。

もし、何かそういう取組で最後、山口さんのプレゼンの後のほうで子供たちが既に楽しんでやっているっていう発言が昨日あったというようなことだったので、それが具体的にどういうことだったのかっていうのがあれば、教えていただきたいと思いました。

以上です。

新産業推進課
長

はい。

昨日の会議の意見は、実は学校教育課の安田先生からご発言いただいたことで、多分学校の教科の取組の中で、子供たちが楽しくその科目を聞くときに、楽しんで取組んでいたっていう話であったと理解しています。

それと、武宮委員が仰った、確かに発想の切り口というのが物すごく大事で、例えばですけども、エレベーターと普通の階段があって、階段をピアノの鍵盤みたいに色を塗るだけで、子供たちは、お母さん、お父さん、親と一緒に鍵盤のほうを歩くんですけど。

ということは、エネルギーを使うエスカレーターを使うよりも、階段と一緒に登っていこうよというほうに、みんなが自然と動いていくっていう、これ「ナッジ」という気付かせるというか、意識付けさせるという取組があったりするので、例えばそういういろんな施設、観光の施設であったりとか、

	<p>市役所の階段でもしかりなんですけれども、そういう鍵盤であるとかそういうデザインじゃなくとも、例えば、この階段を上るだけで何キロカロリーとか、健康志向でもいろんな意識付けするデザインが入るだけで、楽しんで、そして切り口が全然違うところから入れるっていう取組を聞いておりますので、そういうアイデアをしっかり使いながらやっていきたいと思っております。</p> <p>ありがとうございます。</p>
市長	<p>今、武宮委員のほうから、まず子供が知って、その後どうなのかということで、要は発想の転換だと、楽しんで取組めるということは、今度、その次に繋がるんじゃないかというところで、どうやったらそういう形になるのかというのを、いろんな形で考えていければと思っております。</p>
市長	<p>他に何かないでしょうか。</p>
矢吹委員	<p>はい。</p> <p>皆さんのお話を聞いて、この脱炭素というのが非常に重要なことだということが大変よく分かりました。</p> <p>ダイヤソルトさんの海水から濃度を上げて発電するっていうのを、私も今知りまして、素晴らしいことだと思います。</p> <p>こういう素晴らしいことを、子供たちが知って、子供たちだけじゃなくて大人の私たちも知って、日々の生活の中でも関心を持って生活していかなければいけないなと思っております。</p> <p>食べ物でも、もったいない精神ということで、粗末にしないで、小さなことですけれどもごみを減らすとか、電気を付けっ放しにしないとか、一人一人が日々の生活の中で行動を変えていくということも大事だと思っております。</p> <p>以上です。</p>
市長	<p>今、それぞれの皆さん方から意見が出てきました。</p> <p>皆さん方のご意見を集約して、脱炭素に対する意識付けというのは皆さん方必要だ、そして大切だというご意見は皆さん方一緒だと思うんですね。</p> <p>まず今回、総合教育会議ということで、教育の現場で教育的にどうやって取組めることができるだろうかというところだと思うんですね。</p> <p>西海市としては、今、既に進んでいる技術を、出前講座で学校でご説明していただくとか、逆に工場見学で、今、造船所にいっても、船ができる過程がメインだと思うんですが、そこをちょっとアプローチを変えて、カーボンニュートラルについて、一つのテーマを決めて工場見学をするとか、また違う角度から見えてくるんじゃないかなと思っております。</p>

北島委員

すみません。

せっかく市長部局とのこういった場なんで、具体的な話というよりも、どちらかというとな全体的に概念っていう部分のところを、少し私の感じたところをお話しさせていただきたいと思うんですが、教育委員会っていう協議の場だったら、例えば先程言われたカリキュラムの話とか、授業数の話とかになってくると思うんですが、私も冒頭でお話ししましたがけれども、今、西海市としてこういう取組をしていますということをしつかりと表明し始めているわけですし、具体的な事業というのもついてきてるわけですね。

今後、何が生まれてくるのかというと、当然人口減少の時代の中で、先般も長崎新聞に非常にショッキングな、数字を見ると何十年後には40%人口が減っていますという、ほとんど県内の市町では、そういう状況でした。

そういった中で、西海市としてはしっかりと定住人口を作っていく、移住も図っていくっていうところでいうと、地域ブランドをいかに高めていくかっていうことも非常に重要だと思うんですね。

しかもこの環境のテーマっていうことは、特にコロナの時代もありましたし、様々なエネルギー問題、いわゆる東日本原発とか地震の関係の原発問題とかある中で、今、若い人たちが地方で暮らそうとか、自然志向というのは非常に高くなってきている。

そういうところで、せっかくの機会ですので、確かに総合学習の時間とか時間数の部分の制限はあるにしても、打ち出し方だと思うんです。

アピールの仕方っていうか。

学校で学ぶ時間と合わせて、先程、市長がヒントを言われましたけれども、AI 或いはアプリなど、そういったものが、家庭での暮らしの時間の中でポイント制として見えてくるとか、

これだけCO2減らしているっていうのが、家族でそれに取組めて見えてるとかいうのを、学校の一部で取組んで、この学校でモデル校でやってみましょうかではなくて、一気に西海市のどの学校でも環境の時間とか、環境の取組やっていますよっていうことを、西海市の子供たちは環境に対してしっかりと学んでいますよということを、全面展開することで初めてアピール度が増すし、そこに西海市としての取組も加わって、環境のまち西海というイメージが大きくなって行って、結局は、僕は移住定住にも繋がっていければなという感じをずっと感じておりました、是非、教育委員会として、学校教育課としても、いろいろ思案するところはたくさんあるんでしょうけれども、一斉に皆で取組めるようなことがないかなということも含めて、せっかくの時期なんで、新年度からでも何か1個出来ないかなということも含めて、市長部局のほうと、是非いろいろ協議していただいて、何か1個やるということ、是非、私としてもお願いしたいなと思いました。

<p>市長</p>	<p>以上です。</p> <p>ありがとうございます。 最後まとめて言おうかなということを全部言っていただきました。 ありがとうございます。</p> <p>そうですね、打ち出し方というのは非常に大切だと思いますし、そして西海市も非常にアドバンテージがあると思うんですね。</p> <p>それも全面的に生かしながら、6ページに取組のご提案があるわけですが、まずは総合的学習の時間等において、脱炭素社会に技術的に取組んでいる企業の人たちに出前講座をしていただく。</p> <p>そして反対に、企業のほうにあって勉強していただく。</p> <p>そして森林についても、これは子供たちがいかないと、山が来るわけにいかないの、山にあっていただいて、そして山は二酸化炭素を吸収するということが、子供たちは理屈では分かっているけれども、やはり山に入ることによってそれを体感することができるだろうと思いますので、今日の提案ですけれども、出前講座等で学校教育課には取組んでいただきたいと思っていますところでございます。</p>
<p>市長</p>	<p>大体そういうところでよろしいでしょうか。</p> <p>何か他に。</p> <p>最後に教育長、何かございますか。</p>
<p>教育長</p>	<p>特には無いんですけど、最後市長さんが言われたように、取りあえず第一歩として、来年度、6ページにあるような取組から始めたいと思っております。</p> <p>せっかく環境整っていますので、そこから広げて更にいきたいと思っております。</p>
<p>市長</p>	<p>どうもありがとうございます。</p> <p>本来ならば、去年からやっていたんで、今年、途中からでもやりたかったんですけども、年間カリキュラムがあるものですから、なかなか機会がなかったということで、是非、来年度から時間をとっていただければ思っております。</p> <p>それで1番目の議題はこれでよろしいでしょうか。</p>
<p>市長</p>	<p>次に部活動の地域移行についてのご説明を、社会教育課及び学校教育課からお願いいたします。</p>

社会教育課長

すみません。

2番目の議題の部活動の地域移行について説明させていただきます。

着席でよろしいでしょうか。

資料は、横長の部活動の地域移行としたものでございます。

1枚めくっていただいて、3ページ目に、目次ということで資料の作りを書いております。

初めに、国の動きがどういった状況かというのを簡単に3ページ、それから西海市の部活動の状況がどうかというところ、それから県が部活動地域移行モデルというのを作っておりますので、この中から掻い摘んでご説明をしたいと思います。

それから西海市の状況、地域のスポーツクラブ等がどうなっているかということと、地域移行における課題、当面の西海市の方向性はこういったところですよということをお話しいたしまして、皆様からご意見をいただきまして、西海市の取組も、今この中の内容より進んでいるところはほとんどありませんで、今からというような状況ですので、現在の状況を共有いたしまして、問題点などご意見をいただければと思います。

よろしく願いいたします。

そういたしましたら、4ページ目、これは国の資料なんですけれども、部活動の地域移行がいつ頃から議論になってきたのかというところを確かめますと、青い囲みをしていますけれども、平成30年3月の運動部活動の在り方に関する総合的なガイドラインというところから始まっているようでございます。

この四角の中の地域・学校、競技種目等に応じた多彩な形で最適に実施されることを目指すなどと言った議論があったようでございます。

それから、このページの1番下に、学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について、令和2年9月に行われておまして、四角囲みの中の赤文字の文を読みますと、令和5年度以降、休日の部活動の段階的な地域移行を図るとともに、休日の部活動の指導を望まない教師が、休日の部活動に従事しないこととするという流れがっております。

5ページ目が運動部活動の地域移行に関する検討会議提言と、令和4年6月6日ということになっておりますが、これまでの対応と書いた長四角の囲みを作っておりますけれども、こちらにこれまでの対応が整理しておまして、やはりこの中でも1番最初に、運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン、平成30年3月、ここがスタートであるとお書いておまして、次に、学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について、令和2年9月という紹介がっております。

この中で、改革の方向性という真ん中のあたりに目標時期、令和5年度の開始から3年後の令和7年度末を目途としますというスケジュール感が提

言をされております。

右側の青い四角囲みのところにも、矢印、進捗のイメージが書かれております。

続きまして6ページをご覧ください。

これは文科省の資料ですけれども、学校の働き方改革を踏まえた部活動改革概要と書いておりまして、まず部活動の意義と課題ということで、部活動は、教科学習と異なる集団での活動を通じた人間形成の機会や多様な生徒が活躍できる場であると。

一方、これまで部活動は教師による献身的な勤務のもとで成り立ってきたが、休日を含め、長時間勤務の要因であることや、指導経験の無い教師にとって多大な負担であるとともに、生徒にとっては望ましい指導を受けられない場合が生じる。

中教審答申や給特法の国会審議において、部活動を学校単位から地域単位の取組とする旨が指摘されているということで、持続可能な部活動と教師の負担軽減の両方を実現できる改革が必要といった考え方から、改革の方向性としまして、部活動は必ずしも教師が担う必要のない業務であることを踏まえ、部活動改革の第一歩として、休日に、教科指導を行わないことと同様に、休日に教師が部活動の指導に携わる必要がない環境の構築と、部活動の指導を希望する教師は、引き続き休日に指導を行うことができる仕組みの構築と、生徒の活動機会を確保するため、休日における地域のスポーツ文化活動を実施できる環境を整備という方向性が示されておりまして、先生方の働き方改革、これまでボランティアによる部活動指導によって、生徒たちの人間形成の機会や多様な生徒が活躍できる場も持たれてきたという状況が、問題が顕在化してきた面もあるというところになります。

かつ子供たちの中学生世代のスポーツをできる機会を奪ってはならない、そこを両立するために、休日における部活動は、地域のスポーツ活動という環境に移していくべきではないかという考えになったと理解しております。

このような流れの中で、部活動の地域移行というのが進んできております。

地域に移行するということは、社会体育活動になると捉えております。

こういった流れの中で、7ページですけれども、西海市の状況、西海市内の中学校全体で見た場合ですが、棒グラフの上にある黒い印が、中学校の全生徒数ということで、平成30年から令和4年までを見ますと、平成30年の606人から令和4年の599人ということで、若干の増減はありますが、横ばいと言っていいような状況ではないかと思っております。

それから赤い折れ線グラフは、部活動の参加率、加入率でございまして、この棒グラフの青い部分が部活動をしている生徒ということになりますが、これが平成30年の70.8%から令和4年の72.8%ということで、横ばい若し

くは微増という感じになっているかと思えます。

オレンジといいますか茶色っぽい所が部活動をしていない生徒の数、それから青い棒グラフの中の白い文字が部活動をしている生徒ということです。

オレンジの折れ線グラフで黄色い数字は部活動の数ということで、ほぼ42ぐらいになっております。

例で見ますと、国や県で懸念しているのは、部活動の数と部員の数がミスマッチしているですとか、生徒が減っているというところもあるんですが、これだけでいいますと、そこまで感じられないところではあります。

ただ、8ページ目に学校別、チームによっては男女別、そういった部活別のグラフを作っております、これがそれぞれの学校ごとの状況でございます。

バスケットボール、サッカー、軟式野球、バレーボールはチームプレーでございますので、それぞれ最低必要な人数を赤線で引いております。

茶色の部分は3年生で、緑色が2年生、青が1年生ですので、現時点では、3年生が引退しておりますので、サッカーなどを見ますと、この規定人数11人に達しない学校ばかりと。

軟式野球も、西彼中の男子がかろうじてあるという感じですが。

バレーボールも一部、定員割れをしているようなところがあるといった状況で、これは働き方改革の一面もあるんですが、やはり生徒数の減少によって部活動が成り立たない、どうにかしないといけないという状況にはあったと考えております。

9ページ目は、このグラフと同じなんですが、各学校の男女別学年別、数字で示した表でございます。

10ページ以降、国の方針を受けまして、県も長崎県部活動地域移行モデルというものを作っております、7月27日に示されております。

1ページのほうで丸囲みをしておりますところは、生徒数減少割合に比べてさほど部活の数が変化していないという問題意識でございます、先程の各学校のグラフにありますように、各部がそれぞれ最低人数を割り込んだりしているような状況にあるという危機感が示されております。

めくっていただきまして13ページ。

こちらでも課題が少子化による部員不足、それから専門的指導可能な教員不足ということです。

教員不足のほうは、生徒のニーズに合った指導が思うように出来ない、競技未経験や専門外の顧問の負担感、教員の転勤による指導体制の変化、生徒保護者との信頼関係構築に時間を要すると。

教職員減少による複数顧問配置の困難性などの問題もあるということで、県としても今後求められるジュニアスポーツの在り方ということで、部活動ですとか、学校教育、社会体育がどうこうというよりも、ジュニアスポーツ、

中学生世代のスポーツをどうしていくかという書き方になっているのではないかと理解しております。

14 ページをお願いします。

これが、県が地域移行スケジュールということで、令和6年以降、段階的な地域移行を進めますということで、それまでにこのような課題を整理をしていきたいと思いますということになっております。

左側から2番目が課題ということで、教員の働き方改革、指導者育成、資質向上、それから市町教育委員会、各学校の欄では、生徒数の減少に伴う部活動数の適正化、部活動に対するニーズ、地域との連携、それから学校体育団体等で大会等の在り方というような課題があるようになっておまして、それぞれ部活動の研修会ですとか、数の適正化、ニーズの把握、大会練習等の方針をどうするかといったところを議論していきたいと思いますということになっております。

次の15ページも部活動の地域移行ということで、令和7年にかけて地域移行をしていきますということで、平日についても令和8年以降に方向性が示される予定ということですが、部活動平日の欄の令和5、6、7のところに四角囲みにありますように、平日の部活動においても地域移行が望まれるという方向性になっております。

続きまして16ページをお願いします。

どのようにして地域移行を進めるかということに、県が大きくABCの区分で細かく分けますと、12種類の分類でパターンを考えております。

この中で四角囲みしておりますのが、西海市で工夫すれば導入が可能かもしれないと現段階で思っている三つを四角囲みにしております。

次の17ページからが、それぞれのパターンを模式図と内容、メリット、主な課題というところです。

西海市型が、まず18ページの上の段、既存クラブ道場などが運営をするという方法はどうかというところです。

内容は現在行われているクラブチーム、道場などの地域スポーツ団体が運営主体となります。

メリットは既存のクラブチームのため、運営実績があり、基盤が確立されている、指導者は指導者資格を有しており競技専門性が高い。

主な課題は、受入れ人数体制、地域で特定の競技しかなく、部活動、全競技の対応が困難というところがございますが、西海市でも指導者は指導者資格を有しており競技専門性が高いというのは、そういったスポーツ団体ばかりではないというところがありますので、県が示したメリットばかりではないというところもあります。

それから、大人向けの運営をしているところに、中学生を受け入れるというためには、組織を変えたりとか体制を強化したりといったような課題は必

要になってくると考えております。

それから、次の下の 19 ページの上の段ですけれども、保護者会、同窓会などが運営主体となって行うということです。

内容は、保護者会や同窓会が主体となった団体を設立し、休日のスポーツ活動運営と指導者は顧問の兼職兼業、現在の外部指導者、競技経験の保護者、大学生、退職教職員などということで、メリットは生徒にとって平日の部活動をそのまま同じ環境の下で実施できる。

課題は、各年度の役員等交代における安定的な運営体制、それから保護者責任、管理監督責任の在り方ということになります。

今でも部活動の親御さん方で作っている保護者の会があるということで、そういったところが主体になる、或いは、それらが西海市全体で組織を作って指導していくという形が出来ないかということなのです。

ここの模式図に、1 番左に教職員兼職兼業としていますように、自分の今まで身につけてきた競技の指導に情熱を持っておられる先生方もおられますので、休日には、教職員の立場ではなくスポーツの指導者として、教職員と兼職した形での指導者が入るという形で、これまでの部活動と同じような形でできるんじゃないかというようなメリットもあるということなのです。

続きまして 20 ページの上の段ですけれども、スポーツ協会、競技団体の活動拠点型ということで、内容は、体育スポーツ協会や競技団体等による年間ジュニア教室プログラム等の活動拠点による運営、年間育成プログラムの新規事業構築。

メリットは各競技の専門的な質の高い指導が可能、主な課題は、運営費の確保、部員不足の学校や部活動の大会参加の在り方、合同チーム等の検討ということになっております。

西海市もスポーツ協会がありますので、そういったところが傘下の競技団体等で、年間で中学生の教室プログラム等を作りまして、運営をしていくのはどうかというようなところであります。

母体という組織はありますけれども、実際に中学生対応になるには、まず事務局の体制も脆弱でありますし、組織の強化とか、中学校またいで移動というのも大きな課題になってくると思っております。

一応、この三つが今の段階では導入も可能ではないかということですが、他の方法も当然検討して行って、これから有力になったりとか、そういったところもあると思います。

ページ飛ばしまして 23 ページ。

令和 4 年度の各市町の主な取組例ということで、こういったことを令和 4 年度は市町で取組んでいただきたいということになっております。

部活動地域移行における在り方検討委員会プロジェクトの設立、教職員生徒保護者の実態ニーズ調査、各学校における運動部活動の適正化検討、各地

域における地域スポーツ団体の実態把握となっております。

次の24ページは横長になっておりますけれども、A3になっておりますが、地域の受入れ可能性がある団体がどういう状況なのかということで、総合型地域スポーツクラブというのも設立が以前されておまして、今、大瀬戸アスリートクラブという団体がありますが、備考の欄ですけれども現在活動ができておりません。

総合型地域スポーツクラブということですが、現在、陸上競技の指導者のみということで、いろいろなスポーツを展開するような団体にはなり得ないということで、ここも受皿になることは、可能性としてありますけれども整備が不十分ということです。

2番目の西海スポーツ協会も、先程モデルの中で一つ例示しましたけれども、現在は加盟している各協会を取りまとめている団体ですが、スポーツの指導等については基本実施をしていないということで、トレッキング教室などを実施しているというところですが、こちらを母体にするにも、組織の強化などをやっていく必要があるということです。

3番目は、スポーツ協会加盟の各競技ごとの協会がこれだけありまして、各協会から指導者を派遣することができるのではないかと思います。

しかし、現在も現役で仕事をされている方や、既に地域のクラブの指導に当たっている方も多いので、同一種目で市内の5町全地区に、指導者を派遣するというのは困難であろうということです。

中学生の部活の時間帯に時間がとれるのかという問題もあります。

またよく見てみますと、ここには例えばサッカー協会が無かったり、メジャーな部活ですけれども、一般の協会としてまだ出来ていないという団体もあるといった問題もあります。

それから市内中学生所属の社会体育クラブが4番に、5番に市内小学生の社会体育クラブということになっております。

こちらのほうは、備考欄にありますように、一部を除いて多くの指導者が無報酬に近い形で指導されているが、スポーツ活動は今後受益者負担の考え方から、適正な報酬を払って持続活動可能な活動にしていくべきという考えがありますけれども、その辺の費用負担をどうしていくのかと。

全額、その競技をすることのご家庭の負担ということになり得るのか、やはり公的な負担をしていく必要があるのではないかと、そういった議論のところも分かれてきますということです。

このような状況で、現状としては地域が受入れられる状況もかなり脆弱だということがあります。

続きまして25ページ目ですが、地域移行における課題としまして列挙しております。

まず、地域における受皿の整備方策ということで、先程から言いますよう

に組織環境整備がどのようなことが必要なのか。

また先程ご紹介しました県の示すパターン以外にも、西海市独自の移行形態というのものもあるんじゃないかということ。

指導者につきましても、質及び人員の確保対策ということで、指導者に資格認定制度もあるんですけども、これを入れて、資格の認定制度に通った人だけが指導出来ますよとするのか。

そういうことであるなら受皿にはなり得ませんという団体が増えてくれば、資格認定制度を遮二無二に進めるのもいいことなのかどうかというところ。

それから教員の兼職兼業対応を進める必要があると。

それから指導者の評価といいますのは、中学生を指導不的確な指導者から守るという意味で、そういったことも検討すべきではないかということ。

それから社会体育となっていくと、そもそも受皿である施設面の受皿の整備充実強化ということで、かなり西海市内の社会体育施設も老朽化ですとか装備の不十分なところがありますので、中学生の体育環境を充実するためには、学校の施設の使用も引き続きしていただく、させていただくことになりますけれども、社会体育施設の整備も必要であるというところを考えております。

4番が大会、中総体などの在り方ですけども、地域クラブと学校部活動参加に係る諸課題ということで、重複参加について、今だんだん解決が出てきていますけれども、実力格差、地域クラブのほうが当然強くなるんじゃないかと、学校の部活は平日だけといったところの課題もあると思います。

それから費用負担の在り方としましては、増加が確実な活動費用をどう軽減していくのか、貧困世帯の生徒からスポーツの機会を奪うことになってしまふ、そういうことを行わないための対策、それから仮に校区の外の移動とかになりますと、校外の活動で移動にかかる費用負担をどのように考えるのかということ、それから地域に移行したとしても、部活動の延長という考えが変わるまでは、トラブル等に対しまして、学校にトラブルが持ち込まれるというようなこともあって、そういった対応窓口も課題になるという、このような課題を山積していますというところを列举しております。

最後に 16 ページ、現在のところ西海市の方向性としましては、先程県が市町の取組例で出していましたように、市としましても関係者による協議会を設置いたしまして、協議を進めていきたいと思っております。

この協議会を設置する前に、まず中学校の校長先生方との意見交換を実施。

これは 10 月 18 日に一度させていただいております。

また別途、スポーツ協会や地域のスポーツ指導者とも意見を伺いながら、一旦、メンバー構成未定ですけども、この想定の一案として、このような

<p>市長</p>	<p>メンバーが集まって協議会を設置して、どのような移行をしていくかということをお話し合っていきたいと思いますという段階になっております。</p> <p>以上、ご説明です。</p> <p>はい、ありがとうございます。</p> <p>まず、お聞きしたかったんですけども、4ページの学校の働き方改革を踏まえた部活動の改革についてというのがありますが、その中で令和5年度以降、休日の部活動の段階的な地域移行を図るとともに、休日の部活動の指導を望まない教師が休日の部活動に従事しないこととする。</p> <p>これは令和7年度は絶対やれということですか。</p>
<p>社会教育課長</p>	<p>任意なのか義務なのかというところで、はっきりお示しする文書が見えてないんですけども、今は、まだ絶対にしなさいってところは感じておりません。</p> <p>5ページの真ん中の改革の方向性というところの長四角の囲みにありますように、令和5年度の開始から3年後の令和7年度目途ということで、合意形成や条件整備のため更に時間を要する場合にも、地域の実情等に応じ、可能な限り早期の実現を目指すという書き方をしていますので、今のところ地域の実情を尊重したやり方は可能なのかなと考えております。</p>
<p>市長</p>	<p>そうでないと乱暴だもんこれね。</p> <p>とんでもない話だと私は思うんですけども、皆さん方ご存じかどうか、西海市は部活動の欄、支援制度をとっているでしょう。</p> <p>ご説明をいただければと思うんですけども。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>はい。</p> <p>部活動指導員として、令和4年度6名配置をしています。</p> <p>西彼中と西海中が2名ずつで大崎中と大瀬戸中が1名ずつです。</p>
<p>市長</p>	<p>人数はそうなるけれども、どういうことをやっているんですか。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>はい。</p> <p>それぞれの部に所属をされて顧問のかわりに指導をしています。</p> <p>部活動指導員ですので、他の外部コーチとは違って、試合で監督を務めることも出来ます。</p>
<p>市長</p>	<p>山口教育次長。</p>

教育次長	<p>はい。</p> <p>少し補足しますと、外部指導者は、日曜日に個別には難しいということで必ず学校の先生の顧問が、同行しないといけないとなっているようです。</p> <p>ただし、国からの流れである部活動指導員という、資格っていいですか、それで雇った方であると、単独で顧問の先生は日曜日は出ずに試合と引率できるという規定になっております。</p> <p>そこがボランティアで行っていただいている外部指導者とは違うところというところですよ。</p> <p>ただ先程、人数を申し上げました6名というところですが、西彼中2名、西海中2名、大崎中1名、大瀬戸中1名というところですので、全部活動に対応するっていうことではなくて、得意な分野、例えばバレー経験者ではバレー部と、あと陸上にもお手伝いができるというようなところで、2種目と兼任しているようなところもあろうかと思えます。</p> <p>ただ、その方が毎日、平日来ていただけるかということではありませんで、今、大学生の方も多いんですね、教員免許を目指してる方、そういった方ですので、1週間に1回か2回という時間、それもある程度時間が限られるというようなところがありまして、全体的に充足してるかということ、そういった面はまだ弱いかなというところ状況でございます。</p> <p>以上です。</p>
市長	<p>それで部活動指導員ですか。</p> <p>長崎県内でどれくらいの市町がやっているんですか。</p>
教育長	<p>これは教育長会議の情報交換で出た話で資料は無いんですが、私の記憶では、西海市以外はやってないと思いますほとんど。</p>
市長	<p>今の教育長の意見まで含めまして、何か、皆さん方ご意見をいただきたいなと思います。</p>
北島委員	<p>はい、すみません。</p> <p>そもそも論になってしまうんですけども、働き方改革っていうところに端を発しておりますので、教職員の業務に係る負担が大きいと。</p> <p>教育委員会の中でも、残業時間の圧縮といいますか、工夫ということも、議題といいますか、報告をお聞きさせていただくところもあるんですが、それに加えて、休日の指導というのが、ある意味、ある種義務に近い形で負担になってきているということは重々分かっております。</p> <p>それで県職でもありますので、県としてこういう方向性を出したということ、西海市としても、そこに向けてどう対処していくかということ、方</p>

	<p>策を立てていかないといけないというのは分かるんですが、少しお聞きしたいのが、現状、クラブ数とか参加率のことは分かったんですが、そこで実際に起こっていること、先生方が休日の部活動に参加されておられて、そこで起こっているような課題といいますか、先生方のご意見も含めて何か収集されてらっしゃるようであれば、そういった状況をまず教えていただければと思いますけれども。</p>
<p>社会教育課長</p>	<p>はい。</p> <p>10月18日の校長先生方との意見交換で聞いたときには、お答えとずれるかもしれないんですけども、部活動の人数が減っている競技の部があって、学校としては、募集停止で休部にしようかとしていたんですが、指導者さんが非常に熱心だったので、どうしても続けたいということで、生徒に働きかけたか、親御さんに働きかけたかで、部活動を存続することになったと。</p> <p>けれども休日の試合とかにはどうしても引率として先生がついていかないといけないので、休部であったら業務が無くなるところが、業務といいますかボランティアといいますか、曖昧なところが部活の先生たちの在り方のようなんですが、ついていかざるを得なくなるようになったと。</p> <p>その辺は保護者ですとか指導者さんの意向を尊重しないといけないといった困惑のところはあったのかなと感じております。</p>
<p>北島委員</p>	<p>実際、大変だと言った先生方からの声もあるんですね。</p>
<p>社会教育課長</p>	<p>はい。</p> <p>後で補足もあるかと思うんですけども、私もこの間、校長先生方と話をして、外部的な目線で見ているのよりも、学校内部で想像以上に大変な状況なんだなというのを感じました。</p>
<p>北島委員</p>	<p>自分が好きな人はいるかもしれないけれども、全員がそうではないし、たまたまそこに赴任して、その部活を担当しないといけないというのは、いつ誰がそういう役になるかというのは本当わからないので、全体的な思考として十分分かるんですが、ただ実際、先程三つほどの形態を示していただいたんですが、どれも現実的じゃないような感じじゃないですか。</p> <p>集まるにしても送迎どうするのかとか、先程の場合、スポーツ協会とかそういういわゆる地域団体がついていっても、そこも受皿とか人員が無いとか、だからなんでしょう、目標があっても絵にかいた餅的な現状の中で、どういうふういろんな協議を進めていくのかっていうところが、少し見えなところではあるかなというのが印象なんですけれども。</p>

教育長

まず、この部活動の地域移行というのは、二つの面があって一つは教員の働き方改革といいますか、もっと言えば、なぜそうなったのかというと、教員志願者が激減しているんですね。

今、教員採用試験でも2倍を切って、特に小学校あたりはほとんど集まらないですし、病休であるとか或いは産休になったときに、先生が手配出来ずに、教頭先生とか教務主任の先生が授業していると。

そういう意味で、学校現場は産休も本当は喜ばしいことなんですけれども、取るのも申し訳ないような状況で、教員の成り手がいないと。

それはなぜかというと、教員がブラックだというイメージが強くなってといところから、何とか働き方を改革して、働きやすい職場にといところ、部活というのが一つ出てきているんですね。

現実的には、部活がやりたくて教員になったという先生もいるんですね。

ですから、今回の調査にはないんですけども、実際に各学校の指導に当たっている先生が、どれだけそれぞれの部の顧問の先生が専門なのか、そうじゃないのかといのもデータとして欲しいなといのがあったんですけども、イメージ的には、多分半分以下だと思いうんですね。

ですから、校長として1番悩ましいのは、3月末に転勤が決まって、部の顧問をどうしようかといったときに、野球が専門でずっとやっている先生は、すぐやってもらいんですけども、サッカー部の先生が転勤して、そこに誰を入れようかといときに誰も希望者はいないわけで。

希望を一応をとるんです、第1希望から第3希望まで。

第3希望までに入ればまだいいほうで、それでも埋まらないときには、結局、全く希望していない部活に入れなきゃいけないと。

そういったときに、今までの先生にはなかなか頼みづらいので、結局、新しく来た先生を、或いは新任の先生をサッカー部の顧問に、私も新任はサッカー部の顧問でしたので、もう有無を言わせずやれと言われましたので。

それが現状なんですね。

そうなる競技の経験も無いですし、土日の部活といのも、都合があつていけない時ももちろんあるんですけども、試合とかなれば必ずついていけないといけないといことで、私たちの時代には、それが当たり前といことでずっとやってきて、それで自分自身がプラスになったこともたくさんあります。

しかし、こういう世の中ですので、何とか土日だけは、取りあえず希望しない先生は従事しないようにといことで、この案が出てきたと思いうんですね。

もう一方では、部活そのものが成立しなくなったといことで、少子化が進んで野球とかサッカーとかも10人近く部員がどの学校もなかなか集まらないといところ、幾つかの学校を集めれば、やりたい子供たちも部活が

	<p>できるという、この二つの面があるんですけども、やはりどちらかという と、教員の負担減というところでこの話が出てきたと思うんですね。</p> <p>しかし一方では、私個人は、部活動というのは日本が誇るべき学校の文化 だと思うんですね。</p> <p>これによって子供たちは授業で学べないことを学ぶ。</p> <p>先生も負担はあるんですけども、成長するという意味では、これを是非 残してほしいな。</p> <p>教育という面で言えば、人間を成長させるという面では、学校の授業以外 のところで、部活動というのは、本当に人間形成という面では大きなプラス なんです。</p> <p>そういう意味では、是非、西海市では、部活動の形を残しながら、取りあ えず休日、希望しない先生がいるところを何とか手当てするという形で、先 程三つぐらいのパターンがありましたけれども、このパターンにとらわれ ず、例えば部活指導員というのが今6名いるんですけども、ざっと見たら 30人ぐらいいけば、土日はその人に任せてやれると思うんですね。</p> <p>ただ、財政的な負担がその分出てきますけれども、当面は30人ぐらい何 とか指導員を手配できれば、土日はお任せして、中には学校の先生がやっ てもいいよという人が、半分か3分の1ぐらいいますので、実際には20人ぐ らいでいいのかなという気がするんですけども。</p> <p>財政的な負担が増えるのはやむを得ないんですけども、指導員に応援を いただいて、今の部活動という形を西海市としては残してやれないかなと私 個人は思っております。</p> <p>以上です。</p>
市長	<p>私も思うんですけども、これ学校の現場だけに押しつけた感じがするん ですね。</p> <p>この改革ね。</p> <p>中総体なんかありますよね。</p> <p>この運営自体、形を変えなくちゃいけない。</p> <p>そういうのを提示しないと、こういうことを現場だけに言って中総体どう なのということなんですね。</p> <p>どんな大会になるんですかと。</p> <p>そういうところも含めて、これ現場だけに言うんじゃないくて、そもそも教 育として、中総体とか、そういう大会をこれからどんな方向にするのかって いう提示もないで、こんなことおかしいなって私は思うんですね。</p> <p>自分の持論を言って申し訳ないですけども。</p>
市長	<p>何か他に誰かありませんか。</p>

<p>教育次長</p>	<p>はい、山口次長。</p> <p>県の姿勢ですけれども、先般、県の体育保健課のスタンスを見たところですが、県のほうも非常に戸惑っていると言えば言葉は悪いですけれども、国から丸投げされたみたいな感じで説明会のときはあっておりまして、非常に戸惑っています。</p> <p>市町も離島部や田舎ほど、こういったスポーツ団体と、あと距離感がありますので、非常に戸惑っているというのが実情で、市町も県にどうなるんだと、県は国にどうなるんだと、もっと手厚い指針であるとか、予算であるとか、そういったものをきちんと示さないといけないよっていうスタンス、それはお伝えしておこうと思っております。</p> <p>以上です。</p>
<p>市長</p>	<p>何か皆さん方、何か。</p> <p>はい。</p>
<p>北島委員</p>	<p>教育長の部活文化っていう、人を育てるっていうところで非常に共感をする部分もあるんですけれども、同時に、どうしても抜き差しならない状況っていう中で、決断していかないといけないところもたくさんあると思うんですが、そもそも、土日どうしても部活をしないといけないのかっていう議論っていうのは、どうなんですかね。</p>
<p>教育長</p>	<p>今、働き方改革で、時間外を学校現場では45時間以内に抑えると。それまでは80時間。</p> <p>私が現場にいた頃は100時間を超すと言われてたんですけれども、部活をすると45時間以下というのは無理なんですね。</p> <p>したがって、小学校は部活動が基本的にありませんので可能なんですけれども、中学校みたいに部活があると45時間をどうしても超えてしまう。</p> <p>そういう中で、土日とは限らず週に2日、土日をそのうち入れて、週に2日休みの日を設けなさいということにしていますので、土日が潰れるということは練習ではないんですけれども、ただ試合等があれば2日連続というのは普通にありますので、必ず毎週土日どちらか休めるかということ、現状としては休めない日も。</p> <p>試合が多いんですね競技によっては。</p> <p>新人戦と高校で言えば高体連って大きな大会だけだったら、年に2回かそれぐらいなんですけれども、その間に競技によっては何々杯というのがたくさんありますので、月1回ぐらい多分あっていると思うんですね。</p> <p>中学校はそこまでないのかもしれないかもしれませんが。</p>

<p>北島委員</p>	<p>そういう意味では、土曜日も日曜日も潰れるというのは現実にはあるんですよ。</p> <p>ただ日常的には、どちらか休みなさいという県の指導になっています。</p> <p>よろしいですか。</p> <p>結局、今までどおり試合とか大会とかをしながら、だけど現場で関わる人はいないっていう状況を、矛盾した状況で続けていくと、どうしてもやっぱり破綻するじゃないですか。</p> <p>介護の世界もそうです。</p> <p>これだけ人がいないと運営出来ません。</p> <p>だから結局、運営出来なくなると廃止になっていくんですね。</p> <p>それはもう仕方ないです。</p> <p>それだけ安全を確保出来ないわけで。</p> <p>その事業所は運営出来ないということになるんですが。</p> <p>それを何か頑なに大会しないといけないとか、試合をしないといけないっていう発想から抜けられない限りは、絶対、現場の人員調整というか、その整合も取れないわけですから、5年から7年にかけてとかいうスケジュールがありますけれども、それなりに文科省としては、そういった大会であったりとか、試合に対する考え方も人数とか地域のスポーツ状況に合わせて、少し調整をしていきましょうよっていう考え方も同時にないと、もう非常に本末転倒な話をしているような気がするんですけどもね。</p>
<p>教育長</p>	<p>大会については、これは高校の話なんですけれども、各競技団体がそれぞれ計画してやっておりまして、例えば、長崎で国体があるというときには、国体に向けて大会を増やして、強化試合みたいに増やしてやっていたんですけども、国体が無くなった後もずっとやっているとか。</p> <p>そういう各団体がやっている試合についてはなかなか。</p> <p>県とか高体連主催とか、そういうのは県が決めれば減らせると思うんですけども、各種団体がやっているものについては、各種団体の判断ですので、恐らく国が言っても強制力がないので。</p> <p>あとは参加する学校が出なければいいと思うんですね、試合に。</p> <p>でも保護者とか、去年まで出ていたのに何で出ないのかとか、なかなか難しいと思うんですね。</p> <p>先程市長さんが言われたように、これから大会の在り方は、少なくとも高体連とか中体連とか、そういう公的な部分については、学校単位じゃなくて、地域の代表とか、クラブの代表とか、多分混在する形になるんじゃないかなと。</p> <p>それは多分すぐできると思うんですね。</p>

北島委員	<p>ただ試合の数を減らすというのは、なかなか大変みたいですね。</p> <p>どこかで破綻するでしょうね。</p>
市長	<p>この教員の働き方改革ですね、全国市長会の時に出たんです。</p> <p>あるところの市長さんから、その前にちゃんと予算の措置をと、それが先でしょうというような、皆そういう感じなんです。</p> <p>どちらかという押しつけですよ。</p> <p>今、そういう中で教育長からも説明がありましたけれども、部活指導員というのは西海市だけなんです、置いているのは。</p> <p>だから西海市としても結構やっているんですよというところなんです。</p> <p>それをね、こう言われても、私は非常にこれには同調しにくいというのがあるんですけども。</p> <p>ただ仰るように、皆さんも思われたと思うんですが、子供が減っていつてのに部活の部数が横ばいだというのは、これも問題あると思うんですね。</p> <p>学校側も頑張らなくちゃいけないけれども、子供たちというか親御さんたちも現実を見て、難しいのがね。</p> <p>もう他の学校と一緒にになるとか、そういう形でやっていかないと。</p> <p>数が少なくなっているわけですから、そういう中でやれるところっていうか、そういうところをまず改革していかないと、いきなりぼんと出されても、非常に現実的ではないかなという感じで、今日は説明を聞いておりました。</p>
市長	<p>何かありませんか。</p>
武宮委員	<p>私も子供が部活に所属していて、いろいろ思うところがあるんですけども、全体を見るとなかなか簡単にいかないというのが実感で、ただ単純に合理的に考えると絶対数が必要な部活動、サッカーとか野球とか、人数が必要なところは合併したほうがいいのか。</p> <p>そのための移動の費用が、予算が必要になってきますけれども、そういう形で少しずつ顧問の先生の数を減らして、熱意のある方は、そこについていただくのが、1番合理的な、単純に考えると合理的な気はしますけれども、全体をどうしていくかっていうことについては、なかなか浮かばないです。</p>
市長	<p>地域に合った形であるということが言われていますので、西海市に合った、実情に合った在り方というのを考えていくほうがいいんじゃないかなと思うんですね。</p> <p>これに沿って進めていくということではなくて、西海市の地域の特質、移動ということも考えていかなければいけないかなと思うんですが、そういう</p>

	<p>ところを考えながら、今、武宮委員が言われたように、人数を必要とするところは、どこかで統合していかないと日常的に数が足りない。</p> <p>そういう中で練習もやっていかなければならないし、試合にも出られない。</p> <p>それであれば、どこかで集約するとか。</p> <p>個人戦だけでいけるのは幅を持たせてもやっていくとか。</p> <p>そういうふうに住み分けしながらやっていくほうが、西海市にもあったような部活動になるんじゃないかなと思っておりますけれども。</p> <p>どうですかね、私もそういうふうを感じるんですけれども。</p> <p>サッカーが11人ですからね。</p> <p>11人集まるというのは非常に難しくなっている。</p>
市長	<p>他に何かございませんか。</p> <p>時間も来たようなんですけれども、どうでしょうか。</p> <p>今日一応、国、それから県の方向性というか提示されているわけですが、これにそのまま載っかる必要もまだないんじゃないかと思っているんですが。</p> <p>ただし西海市も少子化も進んでいるわけで、人間が足りないという状況は出ているわけであって、そういうところをどう改革していくかというほうが現実的じゃないかなと私も思っております。</p> <p>そういう中で、今日、これ何か結論出さなきゃいけないんですかね。</p>
社会教育課長	<p>すみません。</p> <p>私たちが今、緒についたばかりで、早めの段階で国・県の流れ、そして我々の問題点、こう思っていますというところをご紹介して、ご意見をいただければと思っておりましたので、すみません、結論に導くというような考えはありませんでした。</p>
市長	<p>私もこの方向に対して、決して西海市は先進地になる必要もないと思っておりますので、西海市の在り方を現実に即した方向をいろんな形で改革して、ただ改革はしていかなくちゃいけないという思いがあります。</p> <p>どうでしょう皆さんそういうことでよろしいでしょうか。</p>
市長	<p>尻切れとんぼみたいになりましたけれども、もう時間ですね。</p> <p>委員の皆さん方も、今日、長時間にわたっておりますので、ここらで閉会したいと思います。</p> <p>私の役目はここで終わりますが、次回のことです事務局から何かありますか。</p>

<p>総務課長</p>	<p>本日は、長時間にわたり熱心なご議論ありがとうございました。</p> <p>本日の議事につきましては以上でございますが、総合教育会議ですが、例年、年2回の開催でこれまで実施してまいりました。</p> <p>そうしますと今年度の開催につきましては、本日の会議で終了ということになります。</p> <p>また次年度、こちらの会議を予定していくこととなりますが、こちらの日程の調整につきましては、これまでの実施経過などを参考にさせていただきながら、教育委員会と調整して、来年度の日程は決定していきたいと思いますが、こういった形で進めてよろしいでしょうか。</p> <p>【一同承認】</p>
<p>総務課長</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>それから、お願いになりますが、今回、「脱炭素社会に向かうまち西海市について」、「部活動の地域移行について」の二つのテーマで議論をしていただきました。次回開催に向けて委員の皆様方から、こういったテーマではどうかというものがあれば、是非、事務局にご意見お寄せいただければと思います。</p>
<p>北島委員</p>	<p>またタイムリーな話題というか、そういったものも出てくるかと思うんですが、これまで議論してきたことを見ていただいて、私としては公民館活動の西海市の全般的な運営の考え方といいますか、その辺のところを是非、議論できればと思っておりますので、それも1案として挙げていただければと思います。</p> <p>よろしく願いいたします。</p>
<p>総務課長</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>次回の開催テーマとして、是非参考にさせていただければと思います。他の委員さんからは特にございませんでしょうか。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>それでは以上をもちまして本日の日程を終了したいと思います。</p> <p>長時間にわたりご審議のほど、ありがとうございました。</p> <p>これで散会としたいと思います。</p> <p>どうもお疲れさまでございました。</p> <p style="text-align: center;">午後4時45分 閉会</p>

	(閉会)
--	------